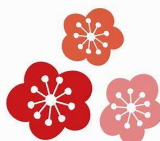


「よい子 強い子 伊丹の子」

伊丹っ子



学校だよりNo. 40

令和5年2月24日

伊丹市立伊丹小学校

校長 磯田 かおり

＊ ＊ 学校評価の結果をお知らせします ＊ ＊ ご協力ありがとうございました！

今年度は7月（前期）の学校評価を元に改善策に取り組んだことを12月（後期）に再度見直して、よりよい教育活動を目指してまいりました。オンラインでの学校評価で分かりにくい点もあったことと思いますが、前期に比べて後期は約30名の保護者のアンケート数が増えたことありがたいことです。各項目の肯定的な評価の合計をお知らせします。

これからも現状をしっかりと見つめて取り組んでまいります。（3%以上増減した項目に↑↓）

児 童	前 期	後 期
自分にはよいところがある <今年度の重点目標>	82%	83%+
学校に行くのが楽しい	86%	88%+
友だちと一緒に活動するのが楽しい	95%	96%+
学習に積極的に取り組んでいる	88%	88%
授業でのゴールがわかり計画的に学習している	81%	86%+ ↑
授業で友だちの考えを聞くことは勉強になる	92%	95%+ ↑
先生は教え方を工夫している	95%	96%+
読書をするのが楽しい	83%	83%
体を動かすことが楽しい	86%	89%+ ↑
「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけて生活している	75%	74%-
廊下を正しく歩く、名札をつける等、生活のルールを守っている	88%	86%-
自分から進んであいさつができています	91%	89%-
委員会やクラスの係の仕事に積極的に取り組んでいる	94%	93%-
友だちに思いやりをもって接している	94%	89%- ↓

保 護 者（前期 591名・後期 620名）	前 期	後 期
子どもは楽しく学校に行っている	94%	94%
子どもは学校の学習に積極的に取り組んでいる	91%	91%
子どもは学校での学びが身についている	93%	93%
先生は子どもの様子をよく見て適切な指導を行っている	89%	90%+
子どもは家庭で読書を楽しんでいる	62%	60%-
子どもは運動に親しんでいる	78%	79%+
子どもは「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身についている	84%	82%-
子どもは学校で家庭のことを話している	90%	88%-
子どもは生活のルールやマナーを守っている	94%	95%+
子どもは思いやりをもって周りの人に接している	94%	94%
学校は家庭と連携して課題に取り組んでいる	84%	88%+ ↑
学校は各種お便りやホームページ等を通して情報を発信している	98%	97%-
学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている	91%	90%-

概ね肯定的なご意見をいただいています。校内や市内に向けて授業研究をしてきたことは、児童の主体的な学びにつながっていることも嬉しい結果として表れています。また、規則正しい生活習慣や規範意識の低下傾向は、注意すべき課題です。今後も、ご家庭と連携して、子どもたちの自尊感情を向上させ思いやりや優しさを育むよう努めます。

今年度初めての取り組み『パワーアップタイム』について

<職員アンケートより>

- ・パワーアップタイムは少人数で子どもたちに向き合えるのでよかった。
- ・パワーアップタイムで自信や実力をつけている児童がいるので効果があると思う。
- ・パワーアップタイムは今後も続けていきたい。
- ・パワーアップタイムが定着し始め、参加している児童も意欲的に取り組むことができている。
- ・パワーアップタイムに参加している児童の保護者からとてもありがたいと感謝の言葉をいただいた。また、参加児童も参加してわかることが増え、満足していると聞いている。
- ・パワーアップタイムで少しずつ子どもに自信をつけられている気がする。
- ・パワーアップタイムや全国学力・学習状況調査の問題や結果を踏まえて分析や研修、校内研究の推進等、体系的に取り組むを進めていると思う。ただ、学級担任のできる子に応じた支援や指導については、さらに研修を進めることで困っている児童を救う可能性を広げられたらよいと思う。

<保護者アンケートより> 計3名の方からご意見をいただきました。

- ・パワーアップタイムで丁寧にご指導頂いて、感謝しております。お陰様で、苦手だった算数が分かるようになって本人も喜んでます。
- ・パワーアップタイムは全ての子に平等に頂きたいです。伊丹市の他の学区は15時帰りの中、伊丹小だけ放課後が伸びて、共働きの家庭が増えている中で、困っています。
- ・パワーアップタイムは、かねてから保護者の間でも話題になっているのですが、ひとりひとりの遅れをとらせない。とのことですが、2学期に入り子どもも勉強が難しくなってきたり親としてもどうしたものかと日々悩み、先生からもパワーアップタイムで苦手を克服してくださるとの提案を頂いたのですが、子ども本人が苦手を克服したいけど、みんなが帰っているのに居残りみたいな形になるのは嫌だと家庭学習で様子を見ることにしました。本人にも、苦手な部分を克服できるんだから恥ずかしいことではない。と伝えましたが中々譲らずでした。パワーアップタイムが始まると聞いた時、保護者の間でもうちだけ残されたら恥ずかしいとか、誰々が残っていたみたい、とかいう噂も耳にします。学校側と保護者側の思いが違う気がします。

パワーアップタイムは、ゆっくりと児童の課題に合わせて学ぶ時間を確保し、誰一人とりこぼさず自信をもたせることを目指して、担任だけでなくたくさんの教職員で協力して子どもに力を注ぎ実施しています。ただ、周りの友だちが下校するのに、残って勉強することは、嫌だなと思う気持ちもあると思います。そのため、パワーアップタイムは、保護者や本人と相談して実施しています。「しなければならぬ」「しかたなく」ではなく、「挑戦しよう」と納得して参加することが大切です。無理のないように進めていきたいと思っています。

苦手克服に向けてがんばることは、勇気があることです。決して恥ずかしいことではありません。それぞれに苦手なことはあると思いますが、困ったときに誰でも安心して「わからない」「教えて。」と言える環境を守っていきたくと思います。がんばろうとしている人を差別したり、偏見で見たりすることのない温かい環境づくりに、これからもご協力をお願いします。

様々な視点からいただいたご意見を参考に、来年度さらによりよい教育ができるように全教職員で検討しながら進めてまいります。ご心配なこと等がありましたら、ご遠慮なく担任をとおしてご相談ください。今後ともご理解とご協力をよろしく願いいたします。